



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

令和6年4月30日

地域版

5月号



感じる心たいせつに みんなの心、みとめあい せいっぱい やってみよう やりとげよう

6年生から6年生へ

校長 小林 京子

「卒業した6年生にも、今日の上瀬谷小の児童朝会を見せたかったなあ。」

とは、私のつぶやきです。先輩に憧れた5年生が進級し、初めて6年生としてデビューした姿は、卒業した6年生のプレゼントを受け取った姿と感じたからです。

以前、この紙面でもお伝えした通り、上瀬谷小学校の朝会は、しいんとした音から始まります。ただ、まだ4月で、クラス替えもしたばかり、1年生も入学したばかりです。同じようにできるのかな、とっていました。まずは、6年生が入ってきて、静かに待っています。これは、昨年度の6年生から引き継いだ姿です。続いて、次々に他の学年が入ってきましたが、どの学年も上手に入場し、初めて朝会に参加する1年生を待つばかりになりました。じきに、上級生が待つ、しいんとした体育館に1年生が入ってきましたが、1年生もだれもおしゃべりしていません。1年生が「前ならえ」をして、静かに座るのをみんながみつめています。小さな1年生が並び終わるのを静かに見守る上級生たち。温かい1年のスタートは、これまでの積み重ねです。

さて、私は、この時期と3月に必ず委員会の委員長と対話する時間を設けています。今年も新しい委員長を先頭に6つの委員会が動き始めました。今年も委員長には校長室に足を運んでもらい、委員会活動を通してどんな上瀬谷小にしたいのか、委員長の経験を通してどんな自分になりたいのかを話してもらいました。「本をたくさん読む上瀬谷小にするために、低学年には絵本の読み聞かせをしたり高学年には学級文庫の入れ替えをしたりし、本の魅力を伝えたいです。」「上瀬谷小に挨拶が広がり今まで以上に皆が仲良しな学校にしたいと思います。」「普段から廊下の歩行などに声をかけ、皆が元気な上瀬谷小にしたいです。」集会を通して全校のみんなに笑顔になってもらいたい、ウサギのミルクがもっと愛され、花がもっときれいに咲き誇るように、とはっきりと語る委員長の姿は、6年生になったばかりとは思えません。実は、上瀬谷小では、3月の終わりに6年生からしっかりバトンを渡される時間があり、それを基に5年生の間に先輩から引き継いだ自分の意気込みを宣言し、所属の委員会を決めているのです。ですから、進級して間もなくであっても、昨年度の6年生の姿をモデルに、どんな上瀬谷小にしたいのかという具体的なイメージをもっているのが伺えます。

昨年度の3月に委員長に「1年をふり返ってどんな自分に成長したか」を問うと、一人ひとりが自分の苦労や失敗や喜びなど長いエピソードと共に語っていました。その卒業生の姿と6年生に憧れた新しい6年生の姿が重なりました。6年生が児童朝会の中で表現する場面は、モデルとなって下級生たちの中に残っていくのだなあと感じた時間でした。